

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立武義高等学校 学校番号 33

## I 自己評価

1	学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒
3	評価する領域・分野	◇教務部		
4	現状の分析	○概ね全項目において高評価を得ることができた。 ○特に「職員の働き方改革」について、生徒及び保護者に対する周知を徹底するとともにさらなる協力をお願いする。 ▲一人一人の個性や能力に応じた指導のあり方や達成感を享受できる授業実践、及び教員研修に努める。		
5	学校の抱える課題	◇教育課程の適正な実践と効果的な運営 ◇普通科、ビジネス情報科の特徴を生かした学習指導 ◇学習習慣の確立 ◇努力が正答に評価される適切な考査と評価の在り方		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・各分掌、学科、教科、学年との相互連携に努める。 ・会議、委員会等業務の効率化と一層のICT化を進め、働き方改革を推進する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 各教科公開研究授業と授業研究会の実施 (2) 朝小テスト・朝タイピング練習の実施 (3) 授業アンケートの実施とその結果をふまえた授業改善 (4) 個々の生徒への学習支援	(1) 職員による情報共有、授業改善 (2) 適切な内容での実施と基礎学力定着 (3) 評価数値、コメントによる検証、教科内での情報共有や授業研究		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	・各教科における研究授業の実施と反省 ・朝小テストと朝読書による学習習慣の確立 ・授業アンケート結果をふまえての授業改善と、生徒が学習する時間と場所の提供 ・授業や校務等へのICT導入と積極的な活用	① 授業改善ができたか。フィードバックを生かしたか。 ② 各教科において授業実践方法の共有が図られたか。 ③ ICT活用に積極的に取り組めたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
12	成果 課題	○電子出席簿の正式導入やPTAの協力を得てタブレット修繕保険を新たに採用する等ICT利活用のための環境整備を進めた。 ▲タブレット修繕保険の適用に関して、その業務内容の煩雑さがあり、担任・ICT担当・事務部等に多くの負担がかかっている。来年度のその業務量を減らすために、どの担当が何を行うのか等の適切な業務整理が必要である。 ○ホームページの活用、新聞等メディアへの情報提供など、広報活動の量が増え、本校の魅力を中学生・保護者等が知る機会を増やすことができた。 ▲本校の魅力や学校活動について、具体的でわかりやすい広報に努め、地域唯一の高校としての存在感をいっそうアピールしたい。 ○長期休暇や放課後の学習支援等、生徒の要望に応じた学習の場を提供した。 ▲家庭学習の時間の二極化が進んでいる。学習支援の在り方を再考し、家庭学習につながる指導工夫が必要である。		
		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D		

### 13 来年度に向けての改善方策案

- ・ICTの活用方法を工夫し、授業においては個々の教員のスキルアップを進める。校務においても、一層のICT化に努め、働き方改革を推進する。
- ・地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献できる生徒を育成するために、普通科「総合的な探究の時間」、ビジネス情報科「課題研究」における取組を工夫し学校全体で情報共有する。また、来年度から計画されているM PROJECT(武義高等学校地域活性プロジェクト)との連携を図る。
- ・行事を精選し、一つ一つのものが有効なものになるようにする。
- ・学校ホームページを中心とし、本校の魅力を発信できる広報活動に努める。
- ・基礎学力の定着や一層の学力伸長に向けた家庭学習の重要性について生徒の意識転換を図る。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

### 【意見・要望・評価等】

今年度の運営協議会においては、教務部に関係する直接の質問・意見などは出されなかった。

しかし、全体に対する意見として「成功、失敗にとらわれず、切れ目のない継続的な支援の計画をお願いしたい。」、「新しい変革に挑戦していくには、学校全体での意識の統一と理解が大切ではないか。」というものがあつた。この意見を受け、教務部としても今まで行ってきた授業研究やICT活用の継続や改良、普通科と商業科の探究活動に関わって両学科の連携のサポートなど、武義高校が停滞せず、スムーズに邁進できるような変化を検討し、実行していかなければならない。

また、いじめを含む、人間関係対応に対して、「先生方の細やかな気遣いと努力に感謝する。」という意見と「物事の大小に関わらず、丁寧な対応をしているが、今後対応案件が増えるとキャパシティを超えて対応できなくなる。物事の大小に対し、力を入れなくてもよいものを選んだ方がよい。」という意見があがった。働き方という点でこのことは大きな問題であると感じた。教員のマンパワーを適切に配分できるよう、業務の精選と適切な業務改善をしていく必要がある。

【別添2】(様式例2)

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立武義高等学校 学校番号 33

## I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導部	
4 現状の分析	○生徒向けと保護者向けで若干文言は異なるが、アンケートでは「進路情報の提供」と「生徒の将来の希望に添った適切なアドバイス」とも、昨年度同様概ね高い評価をいただいている。 ▲個々の進路先が多岐にわたり、進学の方法も多様化しているので、それぞれにどう対応していくかが難しくなっている。	
5 学校の抱える課題	◇進路決定の時期が大きくずれる中で、最後までモチベーションを保つ方策を新たに検討すべきである。 ◇補習や校外模試のあり方を模索中である。 ◇総合的な探究の時間の充実を図る。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・進路情報の充実と進路相談の充実 ・進路目標の実現と「よりよく生きる力」の育成	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路の手引の改訂と活用 (2) 時期に配慮した進路ガイダンスの実施 (3) 年間を通じての自習室の設置と活用	(1) 進路意識の向上 (2) 進路情報に対する満足度 (3) 個々の学習への取り組み具合	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・進路の手引を使いやすいものに変更した。 ・保護者進路説明会を秋に対面とオンラインで実施。1, 2年生の進路ガイダンス。3年生は学年集会形式で3回の進路ガイダンスを実施など。 ・空調を整えた自習室の設置。	①進路意識の啓発になったか。 ②各行事に参加した生徒や保護者は満足しているか。 ③生徒の利用状況はよいか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12 成果 課題	○進路の手引は予定通り改訂し、利用しやすいものになった。 ○生徒向けの進路ガイダンスはどれも効果的な時期に実施でき、生徒から好評であった。感想文やアンケートからもそれがうかがえた。保護者対象の行事も好評で、継続していきたい。いずれも進路意識の啓発に役立ったと考えている。 ▲生徒個々の事情が大きく異なる中で、画一的な指導が難しくなっていることを実感した。とはいえ、生徒の意識向上にとって「全体の雰囲気」は大きな要素なので、最良の方策を検討していきたい。	
13 来年度に向けての改善方策案	・1, 2年次は基礎学力の定着と学習習慣の確立を重点にするのはこれまで通りである。加えて「総合的な探究の時間」の有効活用を図っていく。 ・3年次の生徒には個別指導を中心に全校体制で臨むことを継続していく。 ・補習のあり方は今後も検討していくことになるが、生徒の自主性を第一に考えるべきであろう。 ・求められる力がいわゆる「学力」のみではなくなっていく中で、これまで通りであるべきところと大きく変えていくべきところを精査して改善したい。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

【意見・要望・評価等】 ・様々な進路志望に応じて丁寧な指導をしていただけることに感謝している。
----------------------------------------------------



令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部		
4 現状の分析	○先年に改正されたアンケートの形式が、今年度はしっかりと定着し現実に即した、より正確なものとして見ることが出来る。普段の生活態度から推し量るに、生徒は本校の指導方針を理解しており、ルールやマナーを守ることによく努めている。 ▲生徒及び保護者と教員における意思の疎通にかんしては、より一層慎重に、かつ鋭敏な感覚を持って、対処していくことが求められる。		
5 学校の抱える課題	◇教員側の意識、姿勢に、社会環境の変化や多様化する生徒及び保護者に対して、従来の指導法にこだわらない柔軟な姿勢と、現実に即した新しいアプローチが求められている。なぜルールやマナーが必要なのか丁寧に説いていく必要があり、教職員の意識や体質を改めていくことも求められている。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・クラスにおける定期懇談やアンケート、専門家によるカウンセリングを核とした、教育相談体制の充実。 ・交通安全運動及び挨拶運動をMSリーダーズ、生徒指導部員で分担し実施。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) いじめに関するアンケートの実施。 (2) 社会通念をベースにした身だしなみ指導。 (3) 情報モラル、交通安全講話、人権LHRの実施、MSリーダーズを中心に、交通安全を呼びかける定期的な活動。	(1) いじめ、迷惑事案の早期発見と対応、生徒の相談窓口の多様性の担保。 (2) 指導が必要な生徒への適切な働きかけと自律心や規範意識の醸成、生活しやすい環境づくり。 (3) 講話等の感想を通したHRにおけるフィードバックと啓発。事故や問題行動の未然防止。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・いじめに関するアンケート、心のアンケートの実施、職員間で情報共有し対応する。 ・身だしなみ指導については、生徒、保護者の理解を得、複数人の指導、支援体制で行う。 ・情報モラル、交通安全に関する講話等を通し、規範意識を醸成する。	① 組織による迅速な取組ができたか。対応の改善状況。 ② 個人はもとより、クラス・学年等が落ち着いて学校生活が送れているか。 ③ 交通事故件数の増減。情報モラルや迷惑行為等の増減。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D	
12 成果・課題	○問題行動については、多くの生徒が自覚し規律を守ることに努めたことにより、指導件数そのものは多くない。 ○心のアンケート及びいじめのアンケートが定着し、生徒の訴えをよりダイレクトに受け止め、迅速に対処することができた。 ▲学習環境への不適応に拠る学業不振や進路に関する悩み、また、人間関係がうまく築けないことが、不登校の原因となる例があった。 ▲交通事故は自転車の接触が多く、より一層の注意喚起を促したい。		
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D		

- ・基本的な生活習慣や身だしなみについては、社会通念上認められる支援、指導を行う。
- ・情報機器やSNSが原因となるトラブルを防止すべく、情報モラルについて、より具体的な事例を用い生徒に於いて、実感の伴うような啓発、支援を行いたい。
- ・自転車事故の減少に向け、地区内の安全走行を、今年度に引き続きMSリーダーズを中心に警察とも連携する形で、年度の早い時期から支援、指導を実施する。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

### 【意見・要望・評価等】

- ・自転車のヘルメット着用について校則に含めることはできないか。  
→県下においてヘルメット着用を校則として義務化している学校は現在のところない。引き続き着用に対する声掛けはしていきたい。
- ・以前に比べて自転車のマナーがよくなったようだ。  
→市内各所に手作りポスターを掲示し、自転車マナーを呼び掛ける等の工夫をしたことも一因かもしれない。

## 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立武義高等学校

学校番号 33

## I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒
3 評価する領域・分野	◇特活指導部		
4 現状の分析	○学校行事(バレーボール大会、文化祭)はコロナ禍の影響がまだまだ抜けきれない状況下で熱中症も対処しながら、バレーボール大会・文化祭と工夫して実施することができ、6割程度が高評価である。 ▲生徒会活動やボランティア活動の高評価が6割を切っているが、年末や年度末での活動は多くなる予定である。		
5 学校の抱える課題	◇生徒の自主性を刺激できるように企画運営を仕掛け、自主的に行動できる生徒活動に寄り添えるようにする。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・コロナ禍を意識した上での学校行事等の実施。 ・「一人ひとりの文武両道」が達成できるように支援する。 ・HPを活用した情報発信の実施。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒会執行部への問題提起とアドバイス (2) 部顧問・学年会・担任との連携 (3) 行事結果や事業報告の集約	(1) アンケート結果の集約・分析 (2) 関係部署での情報交換 (3) 校内外での活動実績		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・生徒会執行部への問題提起と委員会を通じ、全生徒への働きかけ。 ・部顧問、担任からの情報収集と、問題点の洗い出しと個別対応。 ・「武義高ニュース」として情報発信。	①行事への達成感や生徒会への関心が高まったか。 ②入部率・転退部率の現状把握 ③情報発信ができていますか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D	
12 成果課題	・社会の状況や情勢を予測して行事の運営ができるように、代替案も含めて検討準備する。 ・生徒会執行部の活躍の場を増やせるようにし、周知しながら活動を見守ってもらう。 ・部活動やボランティア活動が、生徒の実績に繋がるように活性化させる。 ・部活動の現状を把握し、精選に努める。		総合評価 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
13 来年度に向けての改善方策案	・社会の状況や情勢を予測して行事の運営ができるように、代替案も含めて検討準備する。 ・生徒会執行部の活躍の場を増やせるようにし、周知しながら活動を見守ってもらう。 ・部活動やボランティア活動が、生徒の実績に繋がるように活性化させる。 ・部活動の現状を把握し、精選に努める。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

## 【意見・要望・評価等】

・コロナ前のように、少しずつボランティアに参加できるようになり、年末のボランティア活動が活発に行われている。特に、門松づくりが新聞で紹介されていた。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒

3 評価する領域・分野	◇保健厚生部																		
4 現状の分析	○コロナウイルス感染症等の感染対策や災害時の対応についての評価は、生徒・保護者ともに高い評価をいただいている ▲アンケートの評価は高いものの、項目によっては「わからない」と回答されている保護者が倍増しているものもあり、周知できる方法の検討が必要である。																		
5 学校の抱える課題	◇自分で正しい判断や行動が出来る生徒像を目指しているが、指示されたことに関してははっきりできるが、自ら考え行動できる力は不足している。 ◇環境美化について、まだまだ新しい校舎であり、この環境を維持していく意識が学校全体としてももう少し必要である。 ◇健康診断の事後指導が様々な理由で実施が遅れることが多い。																		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・健康で安全な生活について普段の生活習慣を見直し、自主的に健康管理できる能力や態度を育てる。 ・清掃美化とゴミの分別について、美化委員会、保健厚生委員会を中心に学校全体（教員・生徒）で積極的に取り組む姿勢を育てる。 ・火災・災害に適切に対応する能力の基礎を育てる防災教育を行う。																		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
(1) 健康診断の事後指導。 (2) 保健室に来室する生徒に向けての健康指導。 (3) ごみ分別の呼びかけ強化、ポリッシャー清掃など委員会を通じての校内清掃。 (4) 避難訓練を通しての防災教育。	(1) 受診報告書の回収はできているか。 (2) 毎月の保健室利用状況の分析。 (3) ごみ集積所における点検、校内点検による清掃場所の点検。 (4) 訓練の様子や防災訓練ワークシートの結果																		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																	
・クラス担任に受診勧告をしていただき、受診報告書の回収を1か月ごとに行った。 ・全校に向けて「保健だより」の発行や来室者に向けての健康相談を行った。 ・ごみ集積所において分別指導、3か月おきに環境点検を行った。 ・命を守る訓練の実施。	① 速やかな受診報告書回収ができたか ② 不用意な保健室利用者が増えてないか ③ 分別の徹底はできているか 校内の危険箇所は処理できているか ④ 防災意識は高まっているか	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
12 成果・課題	<p>△受信報告書の回収を昨年同様定期的実施したが、再検査の未受診者は学年・受診科により差が出た。（心臓・腎臓に関しては全て完了、眼科・歯科についてじゃ未受診者が多い）</p> <p>○コロナウイルス感染症が5類対応になったことを受けて、命を守る訓練を通常に戻して実施した。（第2回は雨天で机上訓練に変更） 数年ぶりの避難訓練であったが生徒諸君は素早く整然と避難してくれた。</p> <p>△各掃除場所から出されるごみの分別状況が昨年よりもよくなっている。全体のごみの量については例年よりも増加した。</p>																		
	総合評価 A B C D																		



13 来年度に向けての改善方策案

- ・健康診断の事後指導について、引き続き本人・家庭への連絡を積極的に行う。
- ・環境美化について、美化委員会の活動を活発にし、全校異性との意識の高揚を目指す。
- ・防災教育に関しては、1月1日に発生した北陸地方での地震関連の大災害を教訓として、もしもの時にどう対応するか、マニュアルを周知するにとどまらない知識と臨機応変に命を守るための知恵を訓練等で身につけさせたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

【意見・要望・評価等】

- ・いつ学校を訪れても校舎内外において清掃が行き届いている。
- ・コロナ5類以降後もインフルエンザ等感染症対策として換気の呼びかけ等細やかな指導ができた。
- ・命を守る訓練ではコロナ後久しぶりの対面形式での避難訓練であったにも関わらず外部消防署員から高い評価を頂いたことは大変よかった。

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立武義高等学校 学校番号 33

## I 自己評価

1	学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。			
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人一人の個性や能力の伸長と文武両道の実現を推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒	
3	評価する領域・分野	◇図書部			
4	現状の分析	○学校行事への資料提供や朝読書への対応が充実している。 ○情操の向上にも十分な環境である。 ○コロナ対策を講じ、生徒の安全を最優先している。			
5	学校の抱える課題	◇全校生徒がタブレットを所有しており、図書館での調べ学習の機会が少なくなっている。 ◇メディアリテラシーに関する指導が十分とは言い難い。			
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたって読書に親しむ姿勢を育成する「読書センター」としての機能を一層充実する。</li> <li>・学校の教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」として図書館機能を活用する。</li> <li>・学校の教育課程の展開に寄与する視聴覚（メディア）教育の企画・環境を充実する。</li> </ul>			
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
	(1) 図書委員会（教員・生徒）による購入図書 の選定 (2) 授業、LHR、総合的な探求の時間における 資料提供 (3) 芸術鑑賞会の実施	(1) 図書館の利用状況 (2) 授業、LHR、総合的な探求の時間等での利用 (3) 鑑賞後のアンケート、感想			
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめ本の紹介を全校で実施し、優秀作品を県図書館主催のPOPコンクールへ応募。</li> <li>・おすすめ本の紹介、「かみふうせん」の発行。</li> <li>・修学旅行や人権週間、総合的な探求の時間（地域課題研究）の資料提供。</li> <li>・芸術鑑賞会の実施。</li> </ul>	①生徒が読書への関心を高められたか。図書の貸し出しや授業等での利用は十分であったか。 ②学校行事や総合的な探求の時間に関わる資料を提供できたか。 ③生徒に有益な芸術鑑賞会であったか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D		
12	成果・課題	○年度当初1年生の各教室において図書館の紹介を行い、図書館利用が増加した。 ○文化祭でイラストPOPコンクールを開催し、充実した図書委員会活動ができた。全校活動として取り組み、約9割の生徒が作品を提出することができた。優秀作品を県図書館主催のコンクールに応募し、奨励賞を受賞することができた。 ○コロナ対策を徹底しながら、芸術鑑賞会を開催することができた。また、演目について全校生徒の評価が非常に高かった。 ○授業や総合的な学習の時間、学校行事に関する資料を提供することができた。 ▲新型コロナの5類移行に伴い座席の制限はなくなったが、全校生徒がタブレット所有になり、図書資料を使つての学習が減少している。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
13	来年度に向けての改善方策案				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や特別活動での利用において、十分な資料提供を行う。タブレット（ネット）と図書資料の併用も含め、授業利用を提案していく。</li> <li>・広報紙「かみふうせん」を発行し、行事や時事問題に関わる書籍を適切に提供していく。</li> <li>・より充実した芸術鑑賞会を実施し、生徒の情操の向上を目指す。</li> </ul>				

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

### 【意見・要望・評価等】

- ・図書部に関する意見や要望は特にいただいてない。
- ・進路選択や自己啓発、地域課題探究に関する書籍や資料を積極的に購入し、授業だけでなくLHRや総合的な探求の時間における活用を促していきたい。
- ・各分掌、教科とも連携を図りながら、全校体制による「朝の読書」を推進していきたい。
- ・生徒が優れた芸術や文化に触れられるよう、有益な芸術鑑賞会を企画・運営していきたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより、高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人ひとりの個性や能力の伸長と文武両道の実現の推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・他との違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒
3 評価する領域・分野	◇渉外部		
4 現状の分析	○メール配信は有効に活用されていると生徒、保護者共に高評価であるので、今後も継続して有効利用したい。 ▲出来る範囲でPTA活動と連携協力している点で、今年度も3割程度がわからないと評価されている。		
5 学校の抱える課題	◇PTA本部役員・理事の積極的な担い手がいないため、選出に工夫や抽選などが必要となっている。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・PTA活動および同窓会活動に積極的な参加・協力を充実させる。 ・メール配信やホームページを利用した広報活動を推進する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) PTA行事（総会、進路講演会、大学見学会、就職面接指導、交通安全指導、学校祭協賛事業）の実施と役員会の開催。 (2) PTA活動、同窓会活動に関する広報の発行およびホームページやメール配信を利用した広報活動。	(1) PTA役員、会員による各行事への参加人数や反省会の内容 (2) 広報紙の発行や行事報告、役員会の議事録などをホームページやメール配信を利用した広報活動状況		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・PTA行事（総会、進路講演会、大学見学会、交通安全指導、学校祭協賛事業）の実施と役員会の開催。 ・PTA広報「武義高だより」、同窓会広報「古城」の発行およびホームページやメール配信を利用した広報活動。	①各分掌等と連携し、各行事が生徒、保護者のために有益な活動内容だったか。 ②内容がわかりやすい情報発信ができたか。	<input checked="" type="radio"/> A   B   C   D <input checked="" type="radio"/> A   B   C   D	
12 成果 ○PTA関連行事は、工夫を凝らして実施開催ができた。特に、学校祭協賛事業では、久しぶりに食品バザーの実施でき、大変盛況であった。大学等見学会も昨年3倍以上の参加者で実施ができ好評であった。 ・○PTA総会を書面開催で行い、対面での開催より多くのご意見をいただくことができ、良い取り組みであった。 課題 ○広報紙においての発行、役員会の議事録やアンケート結果をホームページにあげ、昨年の反省を活かした広報活動ができた。	総合評価 <input checked="" type="radio"/> A   B   C   D		
13 来年度に向けての改善方策案	・PTA役員との連携を図り、行事への積極的な参加ができるように開催時期や内容をさらに検討することで、有益な活動となるように取り組む。 ・PTA本部役員、理事の選出方法の検討。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

### 【意見・要望・評価等】

- ・今年度は東海高P連や県PTフォーラムでの発表があり、会長を含め役員の方々は準備や当日の発表も責任を持って果たすことができ大活躍であった。
- ・定期総会を書面開催にしたことで、多くの会員様からPTA事業（進路講演会や大学等見学会）に対してのご意見をいただくことができ、その意見を参考にして計画実施したことで参加の増加につながった。これからも、会員様の意見を取り入れることができる、積極的に参加できるPTA事業を行ってほしい。

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立武義高等学校

学校番号 33

## I 自己評価

1 学校教育目標	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより、高い志を持ち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	・夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒	・知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・一人ひとりの個性や能力の伸長と文武両道の実現の推進 ・ふるさと教育やSDGs教育の実践を通し、課題を解決する力の育成	・自分で目標を定め、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ふるさとを愛し、地域の様々な活動に積極的に参加する生徒
3 評価する領域・分野	◇商業部		
4 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・学習指導の項目で、授業内容や指導について生徒からの評価は9割に近い満足度を得ているが、保護者からは生徒より2割近く低いと評価されている。保護者にも学習における成長を理解して頂ける対策をクラス担任と共に考えていく必要がある。</li> <li>・学科の特性に応じた資格取得・学習についても、生徒からは8割の満足度を得ているが保護者からは7割にとどまっている。普通科込みの結果でビジネス情報科の数字が見えないが、資格取得状況がわかるようフィードバックを怠らないよう配慮していきたい。</li> </ul>		
5 学校が抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業・行事等、耳鼻ネス情報科の取り組みが保護者まで伝わっておらず、お伝えする有効的方法を考えなければならない。</li> <li>◇授業を楽しく魅力ある内容とする為、生徒の立場に立って生徒のより良い情報の提供と学ぶ努力を惜しまない生徒の育成に更に注力する。</li> </ul>		
6 今年度の具体的な明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高校から初めて学ぶ商業科目を通じて、経済社会の仕組みや各教科の内容を理解し、「学びとビジネス架け橋プロジェクト」等を通じて、勤労意欲と職業意識の向上を図り、将来自分自身で生き抜く力を養う。</li> <li>◇授業規律、ビジネスマナーの定着とコミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>◇授業を通じた資格取得に関する到達目標の達成。（全商検定1級3種目以上、日商簿記、ITパスポート等の取得）</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)生徒に対して各学年の発達に応じた指導法と意識付けを高める。 (2)教科指導・業務において、誰でも教えられるようなデジタル教材の共有化や時代に即した視覚教材を提示する。	(1) 定期考査・資格習得・生徒及び保護者アンケート、連携企業等へのアンケートの結果 (2) 年度末に共有フォルダーへデジタル教材の保存		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業担当者を中心として、クラスごと偏りのない指導内容と実社会に即した実例と実業界からのリアルな情報を提示。</li> <li>・授業・SHRを通じて、社会通念上必要なマナー指導ときめ細かい配慮。</li> <li>・授業内容の到達指標としての検定取得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒にとって、有益な授業内容であったか。</li> <li>②社会人としてのビジネスマナー等の醸成ができてきているか。</li> <li>③目標の検定取得ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> </ul>	
12 成果 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びとビジネス架け橋プロジェクト」と通じて、生徒が有益なビジネス界の情報を得る事で各教科で学ぶ意義と必要なものは何かを理解し、勤労意欲と職業意識の向上を図ることができた。</li> <li>○学年が上がるにつれて、生徒が自ら目標を持って自発的に学習に取り組み資格取得や課題研究など創意工夫する姿が見られた。</li> <li>▲職務に関する各種業務のマニュアル化が思うように進まなかった。</li> </ul>		総合評価 A Ⓑ C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びとビジネス架け橋プロジェクト」の完全実施を各担当の教員が滞りなく実施することで、生徒への利益を最大限にあげていきたい。また、講義項目の精選や必要な項目増も図りたい。</li> <li>・科目の内容に沿った到達目標を達成するため、年度当初に決めた具体的な方策や資格取得計画に沿い、生徒の実情を見ながら、授業内で理解を深めるため、さらに緻密な策を練った授業を進めて行く必要がある。</li> <li>・職員のそれぞれの職務に関する業務が、いつでも誰でも代替えできるようマニュアル化を進める。</li> </ul>		

実施年月日：令和5年2月9日

## II 学校関係者評価

### 【意見・要望・評価等】

・「学びとビジネス架け橋プロジェクト」は、本当に素晴らしく、生徒が職業についても深く考えられることができるのもっと早く実現して欲しかったくらいです。今勉強していることがどうビジネスにつながるのかがわかると将来の道を決めやすいと思います。